

「こおりやまの米」通信

平成29年6月22日

編集:郡山市
JA福島さくら郡山地区本部 (Tel.921-0533)
NOSAI福島郡山田村支所 (Tel.933-3307)
県中農林事務所農業振興普及部 (Tel.935-1310)
発行:郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市園芸畜産振興課 Tel.924-3761)



郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

Vol. 5 中干し・穂肥

*過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。

こおりやまの米通信

検索

1 生育状況 ~平年並みからやや遅れた生育となっています~

(1) 生育概況

平坦部 : 草丈は短く、茎数はやや少ない傾向にあります。

葉齢の進展はほぼ平年並みです。

湖南地区 : 草丈、茎数、葉齢ともほぼ平年並みの生育です。

(2) 初期害虫

- ・イネミズゾウムシ : 食害は平年に比べ極めて少ない状況です。
- ・イネドロオイムシ : 成虫の本田への侵入は極僅かでした。
- ・イネヒメハモグリバエ : 低温の影響により食害及び産卵数が多い状況でした。6月下旬以降はイネの成長が活発になるため被害の影響が少なくなります。

2 いもち病対策 ~置き苗の処分は終わりましたか?~

いもちに罹病しやすい時期になりました。置き苗は速やかに処分しましょう。

・育苗期から移植時に防除していない水田

葉いもち予防のため、オリゼメート粒剤(初発の10日前~初発時、但し収穫14日前まで)などをすぐに散布しましょう。

予防防除は地区全体で取り組むと効果が高まります。

・移植時に箱粒剤を使用した水田

7月中~下旬にコラトップ粒剤5(出穂30~5日前)等を使用し穂いもち防除を行ってください。

【BLASTAM(ブラスタム)を活用しましょう】

福島県病害虫防除所のホームページでは葉いもちの感染しやすい日を判定するシステム、BLASTAM(ブラスタム)を公開しています。ほ場の観察とともにいもち病予防に活用しましょう。

福島県 ブラスタム

検索



農業資材の適正処理のお願い

農薬の空ボトルや使用済みのビニル資材は「産業廃棄物」となるため、ゴミ集積場やクリーンセンターへの搬入はできません。

JA福島さくらでは使用済み農業用資材の回収処理代行を実施しており、次回の回収は11月の予定です。

詳しくはお近くのJA支店へお問い合わせください。

6月20日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢
コシヒカリ (三穂田)	本年	31.2	267	7.4
	平年比(%)・差	83	79	+0.2
ひとめぼれ (片平)	本年	28.9	513	7.0
	平年比(%)・差	83	104	-0.2
天のつぶ (三穂田)	本年	31.5	369	7.3
	前年比(%)・差	88	109	+0.3
あきたこまち (湖南)	本年	29.1	243	6.4
	平年比(%)・差	97	97	-0.2

県オリジナル品種「天のつぶ」を生産する方へ!

①倒伏しにくい ②いもち病に強い ③大粒で多収である
上記の特徴を備えた「天のつぶ」は、生産者にとっては作りやすく、また実需者からの需要も高い品種です。

品質を低下させずに収量600kg/10a以上を確保するためには、追肥が重要になります。

幼穂形成始期(出穂25日前)に、茎数が520~560本/m²(坪当たり60株植えの場合は、30本/株)に達しない、または葉色が淡い場合は、窒素成分で2kg/10aを目安に追肥しましょう。

※基肥一発肥料を使用した場合は追肥は控えてください。

【GAP(ギャップ)】

最近ニュースでGAP(ギャップ)という言葉をよく聞くようになりました。GAPは日本語では「農業生産工程管理」と訳されます。

今まで、経験則に沿って何となく行われていた農作業を、細かい工程ごとにルールに照らし合わせて点検し、改善を図っていく取り組みのことです。

GAPの導入により、食品安全・環境保全・労働安全を確保することができ、他産地との差別化を図ることが出来ます。次世代の農産物生産ルールの柱として各地で導入へ向けた検討がされているところです。

3 中干し・溝切り ～有効茎が確保されたら実施しましょう～

【溝切りと中干しの効果】

①給排水が容易になる

用水の少ない場所でも均一かつスムーズに給排水が可能となる。

5m間隔で溝切した場合、溝切無の水田に比べ倍以上の早さで排水が完了する。

②根張りをよくする

酸素が土中に入りやすくなり、根の活力を高め老化が抑制される

③無効分げつの抑制

乾燥した土壌にひびが入り、稲の根が切断されるため、一時的にチッソ吸収が止まる

④品質・増収効果

刈取り直前まで入水することができ、登熟の向上を期待できる

⑤コンバインに適した硬さの確保

スムーズな排水が行われるため乾きやすくなる

【溝切りのポイント】

①10cm以上の深さを確保できるよう、作業1～2日前に落水して表土を固める

②溝の間隔は2～2.5mとすると

その後の飽水管理がしやすい

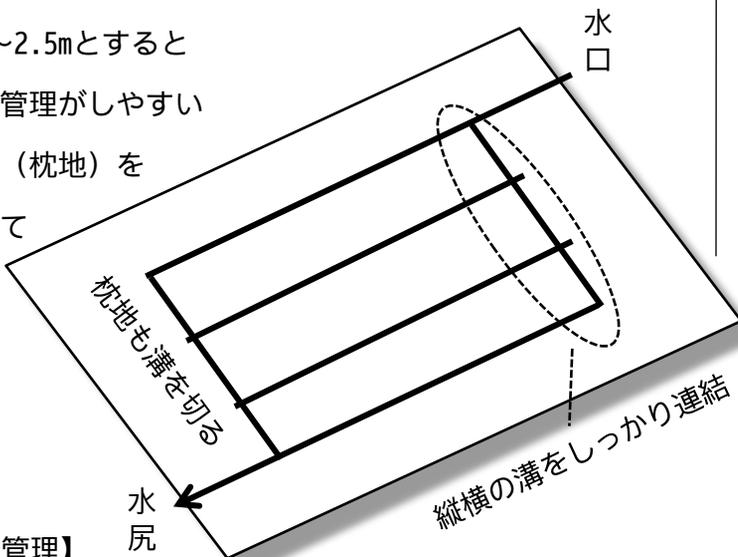
③ほ場の外周部（枕地）を

ぐるりと回って

溝をつなげ、

水口と水尻に

連結する



【中干し後の水管理】

中干し後に急に湛水状態を続けると、土中が酸素不足となり根腐れの原因となります。

中干し直後は土を湿らす程度の走り水とし、3～5日かけて徐々に間断灌水や飽水管理へ移行しましょう。ただし、出穂期には十分な量の水（花水）を確保しましょう。

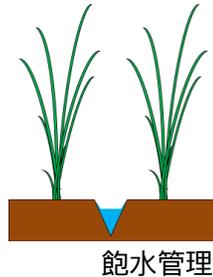
その後は、出穂後30～35日頃まで間断灌水、または飽水管理を続けます。

※間断灌水

3～5日間隔で入水と自然落水を繰り返す

※飽水管理

溝や足跡に水たまりが出来る程度に管理する



【土用干し？】

「土用干し」とは7月中旬の土用の期間に中干しすることを指します。昔の品種は出穂が遅く、土用に中干しを行うのが丁度良かったのです。

今の品種に土用の中干しを行うと、養分吸収が阻害され減収や品質低下を招きます。適期に中干しを行うよう心がけて下さい。



4 追肥（穂肥） ～適期を見逃さないよう与えることが重要です～

【追肥の判断】

幼穂形成期に追肥を行う一番の目的は、穂の大きさ・粒数の確保のためです。しかし、この時期は稈長が伸び始める時期でもあるため、追肥の適期を逸すると倒伏の原因ともなってしまいます。

品種と生育に応じた適切な時期に施用するよう細心の注意を払いましょう。

【施用時期の目安】

・コシヒカリ：出穂18～15日前

・ひとめぼれ、あきたこまち、天のつぶ：出穂25日前

幼穂長による出穂までの日数判定方法は下表の通りです。出穂期は天候により前後しますので、幼穂長を確認するようにしましょう。

※基肥一発肥料を使用した場合は原則として穂肥は行いません。

出穂まで日数の判定方法

幼穂長	出穂前日数	備考
1mm	25日	幼穂形成始期
8-15mm	18日	止葉抽出
80mm	12日	減数分裂期
150mm	8日	葉耳間長0cm
205mm	4日	



平成29年度農薬危害防止運動実施中！

～農薬使用前にもう一度ラベルを確認！～

- ・誤飲・誤食防止のため、農薬は施錠して保管
- ・土壌くん煙中は被覆資材を使用
- ・周辺住民に配慮した農薬の使用

おいしいお米とは？ No. 5

追肥（穂肥）は的確なタイミングで施用すると収量・品質の向上に高い効果を発揮します。効果的な追肥を行うためにも、施用した肥料がどの程度で稲に吸収されるのか把握しておきましょう。

幼穂形成期に施用した速効性チッソ肥料は、成分で1.5～2.0kg/10a施用した場合、ほぼ7日間で全量が稲に吸収され、土壌中からは無くなります。これ以上の量を一度に施用すると稲が消化不良をおこし、生育ムラや倒伏、食味の低下の原因ともなります。追肥して葉色に変化が見られない場合でも、再度追肥する場合は7日後としましょう。

また、使用する資材によっても効き方には差があります。

硫安及び塩安は水に溶けやすく速効性の肥料で、散布から2日目には効果が葉色に現れます。尿素はこれらよりやや遅く、散布から3～5日目に効果が現れますが、長く効きます。IB化成は尿素よりさらにゆっくり効きますので、砂土などの肥持ちが悪いほ場で高い効果を発揮します。

このように、含まれる成分量が同じでも肥料によって効き方は異なります。各種の肥料を試用し、それぞれの特徴を把握して利用することが大切です。